

「肉眼級彗星」にまで増光して、おおいに話題になっか「紫金山・アトラス彗星/Tsuchinshan-ATLAS (C/2023 A3)」も太陽からずいぶん離れ、すっかり忘れ去られてしまいました。先日も「さらば彗星」なる記事を書き、これでこの彗星の話題も終わりだと思っていました・・・が、ぜんぜんちがいました。

ここ2週間ほど、夕刻に時間があると大学施設課に鍵を借りて、文教育学部一号館の屋上で観測しています。本学で一番展望の良い場所です。特に南と西の方位は、ほぼ遮る樹木や人工物がありません。機材は天体写真儀「Seestar（シースター）」と「スマホ」だけです。Seestar が都会の光害に強いことはすでに証明済ですが、さ

すがに今の彗星の撮影は無理だろうと思っていました。ところが、決して「さらば彗星」ではなかったのです。

Seestar を紫金山・アトラス彗星に向けて、思い切って600秒（10分間）露光したところ、彗星のコマ（中心部）だけでなく、曲がった尾までしっかりと写っていました。この日の彗星は、地球のからの距離は、約1.7天文単位（約2億5500万km）でした。最も地球に近づいた時の距離は約5850万kmだったので、すでに5倍近くも遠ざかったこととなります。等級も9.0等で、肉眼ではもちろん、双眼鏡でも全く見えませんでした。そんな遠くて暗い小さな天体を正確に探し出して、ここまできれいな写真を撮るとは、まったく恐るべき性能です。

今日は施設課職員の方も2人、観測を見学に来て下さいました。こんな都会できれいな天体写真が撮れることに、驚かれています。いつか、学内で観望会をしたいですね～、なんてことも話題になりました。いつか実現させたいと思っています。

